

みんなが言っているよ

奈良県 智辯学園奈良カレッジ中学部 1年

増田 瑞帆

人は、人を傷つけるのが得意です。でも、その傷つけられた人は、ずっと傷を持ち続けています。忘れたかのように思えても、きっかけがあれば、傷から血が出るかも知れません。人を傷つけた人は、大抵、傷つけたことを忘れています。若しくは、傷つけたことすら自分で気付いていないかもしれません。

でも、知って欲しいのです。気付いて欲しいのです。あなたのせいで、傷ついた心は、ずっと癒やされることなく、時を刻んでいくということを知って下さい。そして、そのせいで、傷ついた人は、苦しみの穴に落とされ、抜け出せずもがき苦しんでいる可能性があることを知って下さい。

私は、受け身の人間です。だから、今迄、色んな人の言葉を受け止め、その言葉が通り過ぎるのを待っていました。でも、その数々の言葉の中には、私から通り過ぎることなく、とどまっている言葉があります。それは、“みんなが言っているよ。”という言葉。

私の欠点を、

「みんなが言っているよ。」

と聞きました。その言葉は、私の心に傷をつけました。その欠点を言われていても、ああ、と自分自身で納得するし、言われるだろうなあと思っていたけれど、やはり、ぐさりと私の心に言葉の剣がさされて、「みんな」という不特定の顔のない化け物は私に襲いかかってきたのでした。あの時、一緒だった「みんな」なのだろうか。ここにいる人達の「みんな」なのだろうか。私は、周りの人達を疑惑の目で見ました。

傷は、私の心に残ったけれど、日々の時の流れの中で、その欠点に救われたこともあり、欠点は利点に通じる可能性があることに気付きました。

でも、「みんな」とは何を指すのでしょうか。「みんな」の変域はどこからどこまでなのでしょう。考えてみれば、「みんな」という言葉を安易に使い過ぎではありませんか。人を傷つける目的で言った癖に自分一人が悪くなりたくなくて、ありもしない「みんな」という言葉で、無責任にも周りを含める。勝手に含められた「みんな」は、陰でこそこそ言うひきょう者、という疑惑の目を向けられる。迷惑な話だと思いませんか。自分の言葉に責任を持つべきです。そして、関係のない人を巻きこんではいけないし、自分の考えを人に押しつけてはいけません。そんな権限はないはずです。それなのに、そんな人達に傷を受けた人は顔のない「みんな」を巨大に感じて、おそろしくて、動けない日々を過ごしているかもしれません。今、傷ついて、どうしていいかわからないかもしれません。一人になることを恐れているかもしれません。でも、立ち上がるべきです。一人で勝負できない人のために傷つく必要はないのです。さあ、時間を進めましょう。私は、弾き語りをします。文章を書きます。のんびりするし、学校の裏山でとったどんぐりから芽が出たことに感動しま

す。自分が楽しいと思うことを見つけたり、どんどん頑張れそうなことをのぼしたりしていきます。でも又、これから生きていく上で、傷つくこともあるかもしれません。その時は、勇気を出し、穴から抜け出し、もっと高く、大きくはばたく良い機会だと、自分で強く念じます。そして私は、ひきょう者にはなりません！「みんな」という言葉でなく、人と向き合って堂々と暮らします。

私は願います。一人一人が、自分の考えと人を気遣う優しさをもつことができる世の中になって、悲しい事件や傷つくことが減ることを願います。

考え方を変えましょう！行動しましょう！勇気を出しましょう！私も自分を応援します。そして、傷ついた人を応援します。少しずつ自分を変えていけば、自分が生き生きとできる未来がやってくるはずです。もっと生きている今を楽しもうではありませんか。